

# Topic 51

## 米国ミネソタ州の VCP

- 1) こんなところです
- 2) ミネソタ州の VIP (Voluntary Investigation and Cleanup Program)

---

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。今週は、ミネソタ州にスポットを当ててブラウンフィールド再開発をみてみます。

### 1) こんなところです

先週ご紹介したウィスコンシン州の西に位置するミネソタ州。カナダとの国境、そしてスペリオル湖に接しています。州人口約 510 万人、人口密度は約 23 人/k m<sup>2</sup>。1858 年 5 月 11 日、32 番目に米国に加入しました。州都はセントポール、州最大都市はミネアポリスです。この両市はミシシッピ川をはさんで隣り合っており「ツイン シティーズ」と呼ばれています。前者は政治の中心、後者は商業の中心を担っています。このツイン シティーズ周辺の大都市圏には、州人口の約半分が居住しています。圏内のブルーミングトンには米国最大のショッピングモール「Mall of America」があり、ミネソタの観光名所のひとつになっています。

一方、ミネソタといえば沢山の美しい湖や果てしなく広がる森林で有名です。アウトドア好きの方に愛されている場所ですね。冬の寒さは我々日本人の想像をはるかに超える厳しいものですが、その寒さが訪れる前の秋、そして新緑の季節は本当に美しいです。カヌーに乗って湖にでると、美しい「静寂」な空間が広がり、時折、州鳥である Loon (アビ) の声が響き渡って、なんだかちょっとわびしさすら感じます。先住民のダコタ族やオジブエ族の人々はこのような自然の中で文化を育んできたのでしょう。同州の自然資源局は、ミネソタの自然との共生を大切に考えているようです。

### 2) ミネソタ州の VIP (Voluntary Investigation and Cleanup Program)

さて、本題のブラウンフィールドです。本州の自主浄化プログラムの正式名称は自主調査および浄化プログラム (VIP: Voluntary Investigation and Cleanup Program)。ミネソタ州汚染管理局 (Minnesota Pollution Control Agency) により運営されています。

同プログラムには VCP の基本的な諸要素 (財政インセンティブ、環境責任保護、リスクベース浄化と Institutional Controls の採用) が含まれており、それ以外にあまり特記する事項が見当たりません。既にプログラムを利用して浄化終了したサイト数、及び現在浄化中のサイト数を合わせても 2000 件強ぐらい、ということで、先週のウィスコンシンと比べると桁違いに少ないです。もともとあるブラウンフィールドの件数が少ないのかもしれませんが、州は今のところ

ラウンフィールド問題を重要視していないのかもしれないので、そう単純に他州と比較することはできませんよね。

1つ特記しておきたいことは、同州のVIPには環境保険の仕組みがないことです。Institutional Controlを採用している登録者からは、将来発生する可能性のある地下水浄化関連のリスクを管理する必要があるため、VIPに保険制度を組み入れてほしい、という要望もあるようです。しかし、今のところ州はそのような仕組みを設置しておらず、登録者は民間の保険サービスを任意で購入することになっています。

その他、同州の農業部はVIPにならって農業用地専用の自主的調査および浄化のプログラムを設置しています。これは、農薬や化学肥料によって汚染された農地を売買する際に発生する環境責任を保護する仕組みを有しており、農業州であるミネソタでは活用度が高いようです。

さて、今週で米国環境保護庁 Region5 全州のご紹介が終わりました。来週からは Region6 に入ります。環境メルマ 米国 50 州の旅も既に後半。足取り軽く行きたいとおもいます～！

来週は、テキサス州とオクラホマ州のVCPをご紹介しますので、お楽しみに。

Thanks God It' s Friday!

Thanks God It' s Brownfield!!

環境メルマ 佐藤 ([t.sato@ers-co.jp](mailto:t.sato@ers-co.jp))

---

坂野のつけたし ([banno@ers-co.jp](mailto:banno@ers-co.jp))

Nickname -- 「The North Star State (北極星の州)」 「Land of 10,000 Lakes (たくさん湖がある)」 「The Wheat State (小麦がたくさんとれる)」 「The Gopher State (ジネズミの州。この名前との対立候補は「ビーバーの州」だったのだそうです)」

事例紹介 -Twin Cities (ミシシッピ川をはさんだミネアポリス市とセントポール市のこと) : 2002年2月に米国環境保護局(EPA)は、Habitat for Humanity (貧困撲滅を目指して、住宅建築活動を世界規模で行っているNGO ; <http://www.habitatjp.org/> または <http://www.habitat.org/ap/> を参照) と覚書を交わし、国内のブラウンフィールドにエネルギー効率の高い住宅を建設する取り組みをはじめました。HabitatのTwin Citiesにある支部は、安価な住宅建設のために、ひろくて値段的にも手ごろな土地を探しますが、そのような土地は環境上の問題を抱えていることがおおく、環境の専門家ではないHabitatではどうしようもありません。そこでEPAのパイロット事業の出番となります。220万人が住むといわれるTwin Cities内のブラウンフィールドをチェックし、汚染の心配のないサイトをいくつかピックアップすることができました。

そこでのHabitatの活動をひとつ紹介します。8軒の住宅を建てるというプロジェクトが、すべて女性のボランティアで行われています。住宅の所有者になるには、自らが300時間の労働作業を行わなければなりません。ある女性家族の場合、母親はフルタイムで働いており作業にあてる時間がなかったため、学生の娘が放課後に「Sweat Equity（汗の投資）」を提供し、念願の家に住めるようになったということです。 ([http://www.epa.gov/swerosps/bf/pdf/ss\\_twin.pdf](http://www.epa.gov/swerosps/bf/pdf/ss_twin.pdf))